



Germany  
South Korea  
United States  
Finland  
Sweden  
India  
Norway  
France  
Taiwan  
Poland  
Canada  
Madagascar

Tanzania  
China  
Republic of Uganda  
Malaysia  
Thailand  
Laos  
Niger  
Kenya  
Zambia  
United Arab Emirates  
Pakistan

大学院教育支援機構 (DoGS)  
**海外渡航助成金**

— 2025. vol3 —

**助成金額** ▶ 一人当たり 最大**40**万円

京都大学大学院教育支援機構では、大学院教育のグローバル化を目的として、本学の大学院生がフィールド調査や国際学会での研究発表、海外での共同研究、海外の研究室で研究指導を受ける等の目的で海外へ渡航するにあたり、一人あたり最大40万円を奨学金として支援します。



01 理学研究科  
地球惑星科学専攻 博士後期課程3年

宮本 英

計画名 国際ワークショップでの研究発表とカレル大学訪問・研究議論  
渡航国 スロバキア共和国、チェコ共和国



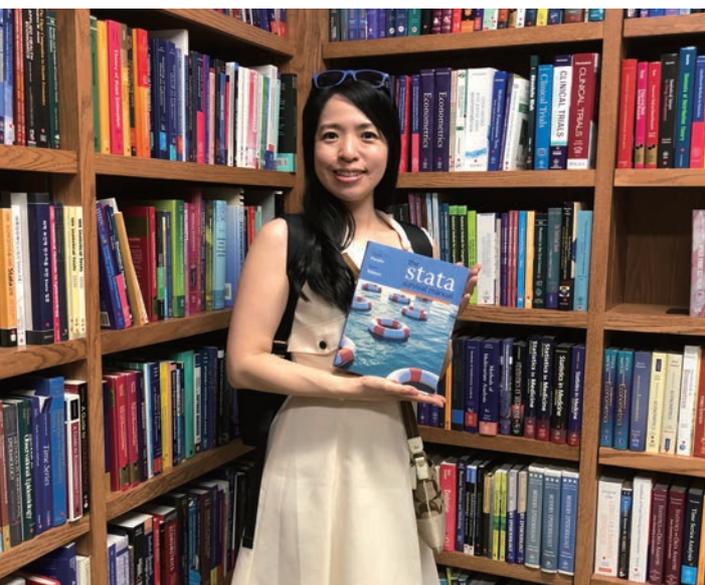
## 研究推進の絶好の機会をつかみに海外へ

私は、地震時に地表で観測される強い地震動の生成メカニズムとその背景物理を数値計算により解明する研究に取り組んでいますが、日本国内では関連研究を含めて多くは行われていません。そんな中、6月にスロバキアで私の研究内容に密接に関係するワークショップ“Numerical Modeling of Earthquake Motions: Waves and Ruptures”が開かれるとのことで、これは絶好の機会と思い、現地で研究発表・議論してきました。また、私が用いている数値解析手法の開発者である、チェコのカレル大学František Gallovič教授を訪問し、解析手法に関して議論しました。ワークショップでのポスター発表では合計で10名以上と議論や意見交換を行い、解析手法の具体的な改善案を得ることができました。また、Gallovič教授との議論からは、物理的要請としては正しいけれども数値解析上は避けるべき点があるなど、解析手法からその理論的背景に至るまで多くの知見が得られました。今後は、本渡航を通じて得られた成果を研究に反映させ、より完成度の高い博士論文を取りまとめたと思います。

## 国際的な知識の拡充と研究環境への挑戦。 世界に羽ばたく8名の大学院生の体験談を紹介します。

### 「経済毒性-Financial Toxicity」研究の発祥地であり最も盛んなアメリカでの学会発表から得た経験

私は、「日本のがん患者における 経済毒性に関連する社会経済的要因の探索研究」の題目で、北米疫学会にてポスター発表を行いました。経済毒性とは、がん治療による経済的な副作用により患者の治療や生活が妨げられることであり、他の先進国とは異なる医療制度を持つ米国で盛んに研究されています。渡航前に掲げた目標である「10人以上の海外研究者との意見交換」と「5つ以上のワークショップやセッションへの参加」を達成し、私の発表には10人を優に超える方々が訪れ、活発な議論を行うことができました。彼らから得た新たな知見は、その後の論文執筆に大いに役立ちました。さらに、国外での研究ネットワーク拡大を目的としたワークショップに参加し、以前から興味を抱いていた米国大学院の研究者ともつながることができました。彼女とは現在も連絡を取り合い、研究に関する情報交換を行っています。初めての国際学会でこのような成果を得られたことは、研究者としての自信を築き、非常に重要なマイルストーンとなりました。



02 医学研究科  
社会健康医学系専攻 博士後期課程1年

菅 香織

計画名 がん患者における経済毒性の要因—米国疫学会での研究発表  
渡航国 アメリカ合衆国





03 工学研究科  
社会基盤工学専攻 博士後期課程1年

江城 静順

計画名 国際会議・研究集会での議論と技術会得による研究  
課題推進  
渡航国 フランス



## 知識と情熱が交わる場 —— 交流から国際共同研究の地盤形成へ ——

土の保水性は、堤防の決壊や干ばつ、土壌汚染といった多くの地盤問題に関わります。私は、土の保水挙動をミクロの視点から観察して保水メカニズムを解明し、ミクロの保水メカニズムに基づいてマクロの保水性を簡便に予測する手法を確立する研究に取り組んでいます。この研究をさらに進展させるため、今後の研究展開の模索、国際共同研究基盤の構築、数値解析技術の会得を目的に、フランス・グルノーブルへ渡航しました。今回参加した国際会議や研究集会では、若手研究者同士の研鑽と交流が重視されていました。各国の新進気鋭の研究者たちと膝を突き合わせ、時には侃侃諤諤の議論を交わし、時には腹を抱えて談笑する——そうした濃密な時間を通じて、互いの研究に対する情熱を肌で感じることができ、大きな刺激を受けました。ここで知り合った研究者とは今も連絡を取り合っており、特に数名の研究者とは訪問や共同研究の計画を立てています。今回築いたつながりを大切に、良いコラボレーションを生み出せるよう、今後も積極的に活動していきたいと考えています。

大学院教育支援機構 (DoGS) 海外渡航助成金は、世界を舞台に研究を深め新たな知見を探求する機会を提供し、あなたの未来を切り開く鍵となります。あなたも海外渡航助成金を活用し、世界との繋がりを築き、自らの研究の可能性を広げ、未来への第一歩を踏み出しましょう！

## 世界最高強度超冷中性子源のコミッションング

本助成の支援を受け、カナダ、バンクーバーにあるTRIUMF研究所に渡航しました。ここでは、物質優勢宇宙の起源解明に向けて重要な物理量である中性子電気双極子モーメント (Neutron Electric Dipole Moment, nEDM) の高精度な測定を目指して、約300neV未満と極めて低い運動エネルギーを持つ超冷中性子 (Ultracold Neutron, UCN) を世界最高強度で生成する装置 (UCN源) が建設されています。ここで私は、UCN源の性能を決める重要な要素である、中性子減速材から発生する中性子の強度とスペクトルを金箔による放射化法によって評価しました。渡航中は減速材なしと重水減速材充填時の2つの条件で金箔による放射化実験を行いました。さらに、シミュレーションで得られる中性子スペクトルと比較することで、その妥当性を議論しました。今後は、本渡航で確立した手法をもとに重水に加え、液体重水素が充填された条件での中性子束測定を行うことが予定されており、世界最高強度でのUCN生成を目指します。



04 工学研究科  
原子核工学専攻 修士課程2年

藤谷 龍澄

計画名 高強度超冷中性子源性能評価のための冷中性子  
束測定手法の開発  
渡航国 カナダ





**05** 農学研究科  
応用生命科学専攻 博士後期課程3年

**高松 恭子**

計画名 植物微生物叢シンポジウム2024での研究発表及び  
研究所訪問  
渡航国 オランダ



## マイクロバイオータ研究の最前線 ～植物－微生物相互作用の国際共同研究に向けて～

私は、トマトの特化代謝産物を介した植物－根圏土壌細菌の相互作用の研究を行っています。本助成金の支援を受けて、学会での研究成果の報告と研究室訪問を目的に、およそ10日間の日程でオランダに渡航しました。研究発表のための5th Plant Microbiome Symposium 2024への参加、および学位取得後のポスト先としてアムステルダム大学の研究室訪問、セミナーへの参加と発表のためのNetherlands Institute of Ecology (NIOO)の研究所訪問を通じて、国際的な研究者ネットワークの構築や、今後の研究活動およびキャリアプランに向けたディスカッションを行うことができました。特に、学会への参加がきっかけで新たに共同研究の話が持ち上がったことで、NIOO研究所訪問ではセミナー発表も踏まえて今後に向けた打ち合わせをすることができました。今回の渡航を通じて得られた人脈や、研究計画を大切に、今後の研究活動の発展やキャリア形成に繋げていきたいと思っております。

Germany  
South Korea  
United States  
Finland

Sweden  
India  
Norway  
France

Taiwan  
Poland  
Canada  
Madagascar

## ドリアンのフレーバーを決める代謝物の解析 —— 日タイの研究者の連携を強める ——

熱帯果樹ドリアンが持つ独特なフレーバーに興味を持ち、タイの様々な産地・品種のドリアンを対象に品質分析と遺伝子解析に取り組んでいます。本研究は、タイカセサート大学への留学をきっかけに始まり、これまで現地の先生や学生から多くの協力をいただきながら、日タイの研究者が連携して研究を進めています。今回の渡航では、タイ東部および南部で収穫されたドリアンを対象に、官能評価と代謝物分析を行いました。実験を行うにあたって、現地の学生や技術スタッフの方々に様々な場面でご協力を頂きました。自身が主体となり、海外で研究を進めていった経験は、今後の研究活動の糧になると思います。今回、人が感じるフレーバーとそれに寄与する代謝物が明らかになったため、今後はそれらに関連する遺伝子についても調査したいと考えています。また、約1ヵ月のタイでの生活を通して、多くの学生や研究者と交流することができました。本渡航で広がったタイでの研究者ネットワークを活かして、研究をさらに発展させていきたいです。

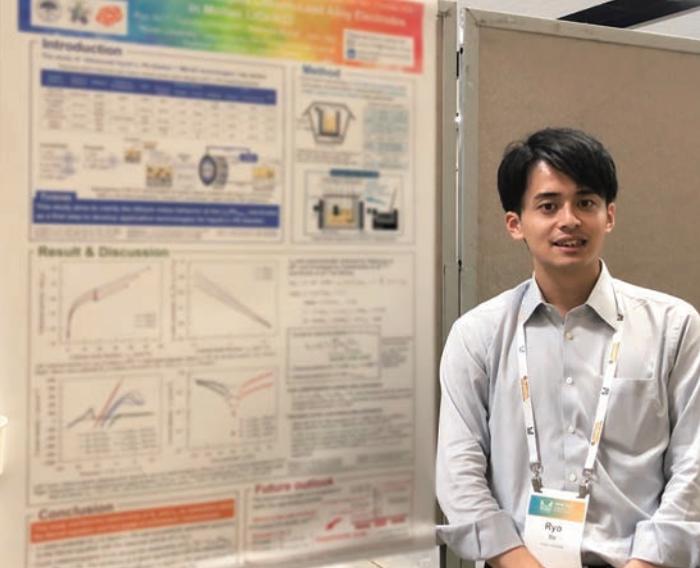


**06** 農学研究科  
農学専攻 博士後期課程1年

**平岩 尚樹**

計画名 多様なドリアン品種の品質分析とポストハーベスト  
技術の研究  
渡航国 タイ





07 エネルギー科学研究科  
エネルギー変換科学専攻 博士後期課程1年

伊藤 諒

計画名 核融合発電の実用化に向けたリチウム6同位体濃縮技術の確立  
渡航国 アメリカ、ドイツ



## 地球一周研究紀行 —— リチウム同位体濃縮から広がる研究の輪 ——

本海外渡航は、ハワイにて開催された国際会議PRIMEへの参加、アメリカ・ブルックヘブン国立研究所 (BNL) への訪問、ドイツ・カールスルーエ工科大学 (KIT) への訪問、以上3点を主題に実施されました。PRIMEでは、液体LiPb電極を用いた6Li濃縮研究について新視点を得ること、BNL訪問では、6Li濃縮の副産物である7Liの活用法について検討を進めること、KIT訪問では、液体LiHg電極を用いた6Li濃縮研究について、プロジェクト参画に向けて意見交換を行うことを目的としました。PRIMEでは、2時間のポスター発表を行い、10名以上の聴講者と議論しました。Li酸化還元反応の律速段階の調査に活路を見出しました。BNL訪問では、研究員5名に対して口頭発表を行い、イオン源や加速器など実験施設を見学しました。日本帰国後にも連絡をとり、今後の実験を計画しています。KIT訪問では、研究員7名に対して口頭発表を行いました。Thomas博士やChristos博士と相談の上、次回訪問(2025/4-6)が決定されました。研究機会が認められ非常に光栄です。次の2ヶ月滞在では、国際会議ポスター発表相当の成果創出を目指します。



Tanzania  
China  
Republic of Uganda  
Malaysia

Thailand  
Laos  
Niger  
Kenya

Zambia  
United Arab Emirates  
Pakistan

## 現場の温度感に触れる —— 教会の新たな女性リーダー誕生の瞬間 ——

今回の渡航目的は、ナミビア福音ルーテル教会で女性牧師が増えていることに着目し、その背景と彼女たちの位置づけを明らかにすることで。3ヶ月にわたるフィールドワークでは、女性牧師と男性牧師を対象としたインタビュー調査や、教会公文書館での文献収集、日曜礼拝出席などの参与観察を行いました。その結果、ナミビア地域社会の歴史や政治的状況が女性牧師の増加に大きく影響していることが明らかになりました。さらに渡航期間中に行われた総会の選挙では、監督 (Bishop) という上位職のポジションに国内ではじめて女性が選出されました。このことから女性牧師の数が増えているだけでなく、教会の指導的地位における女性の存在感が増していることが示唆されました。インタビューや観察を通して国内初の女性監督誕生という歴史的瞬間の盛り上がりを感じることができたのは、現地調査で得られた成果のひとつだと考えています。今回の調査結果をもとに、引き続き地域の視点から研究を進めていきたいです。



08 アジア・アフリカ地域研究研究科  
アフリカ地域研究専攻 博士課程 (5年一貫制) 2年

渡邊 麻友

計画名 ナミビアにおける女性牧師増加の背景と位置づけ  
渡航国 ナミビア共和国





[https://www.kugd.k.kyoto-u.ac.jp/grant\\_dogs/](https://www.kugd.k.kyoto-u.ac.jp/grant_dogs/)

申請期間や応募資格等の詳細は、大学院教育支援機構のホームページをご覧ください。

